

2020年1月31日 記者会見 発表内容（埼玉）

発表内容：役員異動について

日 時：2020年1月31日（金） 16時00分～16時35分

場 所：埼玉県政記者クラブ

発表者：埼玉りそな銀行 代表取締役社長 池田 一義

りそなホールディングス 取締役兼代表執行役 福岡 聡

【冒頭挨拶】

（池田）

本日は急なお願いにもかかわらず、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。本日は4月1日付で行います当社のトップ交代を指名委員会、取締役会などの手続きを経て内定いたしましたので、発表させていただきます。また、同時刻に日本銀行金融記者クラブにて、りそなホールディングスとりそな銀行のトップ交代を公表しています。

まず私の後任は、現在りそなホールディングスの代表執行役としてグループ全体の財務部門を統括している、いわゆるCFOである福岡が代表取締役社長に就任します。

代表取締役社長の私は取締役会長に就任し、執行から監督、また銀行のサポートへと役割を変え、執行とは分離した取締役会の議長としてガバナンス体制の強化などに注力していきます。また、これまでも兼務している埼玉りそな産業経済振興財団理事長職のほか、商工会議所や共同募金会など各団体の活動を通して、従来以上に埼玉県の発展の為に力を尽くしていく所存です。在任中はお取引先や県内経済界の皆さま、埼玉県や市町村など行政の皆さまなど地域の多くの方々にお世話になりました。まだ少し早いですが、この場をお借りして厚く御礼申し上げる次第です。

この6年を振り返ると、2003年に注入された多額の公的資金を、12年間という歳月は要したものの、完済することができたことが一番大きな出来事です。また、マイナス金利政策のもと異次元の金融緩和が深度を増し、競争環境も金融機関同士から他業態も含めた競争となるなど、大きな変化に直面しました。こうした環境の中においても、地元銀行として一貫して掲げる経営理念の実現と、企業経営者の皆さまや個人のお客さまの課題を解決し、お役に立てる銀行になることを目指し、グループの総合力を活かした質の高い営業への転換を図るとともに、“改革”という「りそなのDNA」を植え込むことはできたのではないかと感じています。収益構造改革の取組みは道半ばではありますが、りそな改革の継続で、営業スタイルやオペレーションの仕組み、従業員の意識など、土台は出来上がったと考えています。

しかし、時代は大きく変容し本格的なデジタル社会の到来を踏まえ、銀行のあり方も次世代に向けて一層の変革が必要と判断しました。新社長には、少子高齢化の時代を迎えるなか、地域金融機関として県内経済の成長への貢献はもとより、埼玉県の将来に亘る活力維持・向上に向け何ができるかなど、新たな発想で経営に取り組んでもらいたいと考えています。

経営の若返りを図り次の世代にバトンを渡しますが、新経営陣には、次の10年に向けて旧来型の銀行業という意識を捨て、新しいパワーでこれまで以上に地域経済や個人のお客さまのお役に立てる、存在感のある新しい銀行への成長を担ってほしいと期待しています。

それでは、後任の福岡より一言ご挨拶をさせていただきます。

(福岡)

本日は大変お忙しいところ、お時間を頂きまして誠に有難うございます。この度、4月1日付で、埼玉りそな銀行の社長に就任することとなりました福岡です。公的資金完済を果たし、マイナス金利環境下に次世代金融サービスを追究されて来られた池田社長に心から敬意を表したいと思います。時代が大きくパラダイムを変える中での交代であり、大変身の引き締まる思いです。池田社長はじめ歴代トップの下、役職員全員で地域とお客さまと共に築いてきた「信頼の歩みと想いというバトン」を確りと受け継ぎ、経営にあたる所存です。今後も、創業以来変わらぬ銀行像『埼玉県の皆さまに信頼され地元埼玉と共に発展する銀行』を目指し、地域金融機関として存在価値を一層高めていくことが私の使命と心得ています。

少子高齢化やデジタル化等の進展は社会構造のみならず価値観までも大きく変え、従来の常識では測りきれない数多くの対応を我々に求めています。こうした環境下、常に地域に感謝の気持ちを持ち、よりお客さまに寄り添い、またグループの持つ国内最大級の店舗ネットワーク、情報やデータ、信託機能、デジタル技術、なによりも人材力といった総合力を活かし、質の高いサービスの提供に努めて参ります。また、埼玉県ならびに各市町村との連携を深め、次世代の街づくりや、環境、文化、教育などの分野にも積極的に関与し、地域経済・社会の活性化、日本一暮らしやすい埼玉県の実現に貢献を果たしていきたいと思います。加えてグループ一丸となり、金融の枠に捉われることなく、「明るい未来を次世代に繋ぐ」ための社会的に価値あるサービスの創造にも挑戦し、『暮らしや事業の、将来にわたる身近で頼りがいある存在』になっていきたいと思います。

この5年間は埼玉りそな銀行を離れグループのCFOという立場で経営に携わってきましたが、改めて埼玉県の魅力、潜在力、可能性を実感すると共に、地元埼玉への想いを一層強く心に刻む毎日でした。この想いを決意として、目指す銀行像を実現するため粉骨砕身努力していきますので、池田社長同様、変わらぬご支援・ご指導・お引立ての程、宜しくお願い申し上げます。

【質疑応答】

Q 1. この6年間の一番の成果は

A 1. (池田)

預貸金利益中心の銀行の従来型のビジネスモデルを変換するため、収益の源泉の多様化に挑戦し一定の成果があったと感じています。まだ道半ばではありますが、従来型のビジネスモデルから相当変化してきているのではないかと考えています。

Q 2. 指名委員会から新社長就任を聞いた時の気持ちは

A 2. (福岡)

正直驚きましたが、生まれ故郷の埼玉に貢献したいというライフタイム・ミッションをワークライフ・ミッションにできるという想いが強く、お受けしました。

Q 3. 銀行業界全体が投信販売で苦戦する中、証券業界は残高を増やしている。今後も預貸金だけではない道を十分に確保していけるのか

A 3. (福岡)

商品だけで解決できないお客さまの困りごとが、今後も数多く出てくるのではないかと考えています。今後も我々の店舗ネットワークや情報量、長年培ってきた信託のノウハウなど様々な機能を組み合わせることで新しい価値を生み出すことがとても重要だと考えており、それに挑戦していきたいと思います。

Q 4. 埼玉県は何市の出身か、出身高校は

A 4. (福岡)

騎西町(現 加須市)の出身です。出身高校は、埼玉県立不動岡高校です。

Q 5. 福岡新社長の人選の理由は

A 5. (池田)

福岡新社長は、埼玉りそな銀行の設立準備の段階から経営に参画し、銀行のあり方や埼玉県との係わりについて非常に理解していることが大きな要因です。それにも増して冷静で、大局的な判断ができると感じています。関西みらいフィナンシャルグループが誕生してりそなグループの複雑性が増してきている中、財務的な観点からグループを総括してきただけでなく、IR活動の中で投資家に対して説明する様子を見る限り、経営者としての資質があり、埼玉県に対する情熱・想いも強く、マーケットに価値を提供してくれるのではないかと感じました。

Q 6. 埼玉県経済の現状と強み、県経済における埼玉りそな銀行が果たしていくべき役割は

A 6. (福岡)

マクロな経済環境では直近は消費が弱含みですが、経済対策が一定の下支えをしてゆるやかな成長軌道を描いていけるのではないかと考えています。一方、グローバル規模で大きく変化していく時代でもあり、その変化や影響をしっかりと捉え、お客さまに対して今行うべきご提案と中長期的な視点に立ったご提案の両方を行っていくことが本当に大事だと考えています。埼玉県は人口や経済力では国内上位に位置しており、また交通の要衝、交通網がさらに充実していくことを踏まえると、人口構成・社会構造が大きく変わってくるのが予想されます。地域の金融機関として、将来の暮らしや事業の変化を見据えたサービスの提供、またもっと新しくもっと価値のあるサービスの開発、それをご提供するために人材力を高めていくことと、地元埼玉への情熱の両方を兼ね備えていくことが必要だと思っています。

Q 7. 収益構造改革は道半ばとあったが、収益をあげていくためにどのような分野に重点を置いていくのか

A 7. (福岡)

現行の中期経営計画の「3つのオムニ戦略」には、「オムニ・チャネルの進化」「オムニ・リージョナル体制の確立」「オムニ・アドバイザーの育成」があり、収益構造改革において力を入れているのは特にフィー収益の拡大です。ファンドラップやキャッシュレスプラットフォームなどお客さまに「将来に亘って役に立ったな」と思っただけのようなストック型フィービジネスに注力しており、お客さまの課題認識を原点に置き、「お客さまの困りごと」を解決していきたいと考えています。このような目線で今後もさらに様々なサービスや信託機能を深掘りし、新たな領域を探索し、過去を振り返った時に役に立ったなと言っただけ、評価していただけるサービスに挑戦していきたいと考えています。

Q 8. 埼玉りそな銀行としての具体的取り組みは

A 8. (福岡)

グループの力をどう生かしていくかをお客さまの近くで考え、お客さまの状況をよく知り、その変化を見据えて何をしていくべきかを考えられる人材を育てていきたいです。また、デジタル化が急速に進む中でお客さまに提案していけるよう、従業員自身のデジタルスキルも身につけて向上させ、埼玉県の実態に合わせて展開していきたいと考えています。

(池田)

次期中期経営計画の中には、SDGsを経営により浸透させ社会課題の解決に我々がどのように取り組んでいけるのかという「地方版SDGs」のような考え方も取り入れたいと議論しているところです。

Q 9. ATMや店舗に関する展望、考えは

A 9. (福岡)

店舗ネットワークはお客さまとの大切な接点であり、相談を受けられる場所と捉えており、店舗ネットワークを減らしていく考えはありません。デジタル技術を活用していかに効率的にオペレーションを行っていくのか、その上で社員が全員ご相談に向かっていけるような体制にしていきたいと考えています。そのために、タブレットの開発や教育に力を入れているところです。

Q10. 埼玉県経済の課題は

A10. (福岡)

日本全体で社会・経済構造が変わっていく中で、特にデジタル化やグローバルな影響というのは従来の概念では捉えきれないぐらい県経済や地方経済、社会生活に大きなインパクトを与えてくると思います。りそなのDNAは、様々な価値観を認めて、オープンプラットな考え方で、サービスを追求していくというものです。このDNAをしっかりと次世代に繋いで持続的な変革に挑戦し、何か困りごとがあれば解決していきたいと考えています。

(池田)

減災、防災が喫緊の課題ではないかと考えています。県も既に手を打ち始めていますが、ゲリラ豪雨など異常気象によるインフラや河川への影響を踏まえ、同じような被害を繰り返さないために早く手を打っていかないといけないと思います。銀行としては金融仲介機能の提供という形で、この取組みを支えていきたいと思っています。

Q11. 県内で尊敬している経済人や早く会いたい人はいるか

A11. (福岡)

銀行は地域社会における企業市民であり、地域の今後の考え方をより理解されている方、たとえば知事や市長などの行政の方々、数多くのお客さまなど様々な分野の方から話を聞いて学んでいきたいと考えています。

Q12. 地銀再編の流れがある中で、今後の提携戦略は

A12. (福岡)

オムニ・リージョナル戦略の中で、現在 20 程度のフィンテック企業と手を組んでスマホアプリやキャッシュレスなどのサービスを開発しています。現時点でも資本関係に囚われずに地方金融機関などに商品やサービスを提供しており、このような動きを広げていくことが今後ますます重要だと考えています。提携範囲を広げれば広げるほど、商品を開発するスピードも速まり 1 社あたりのコスト負担も減ります。総力をあげて社会課題を解決していくことが、これからの連携の在り方だと思います。

Q13. これまでで一番印象深かった仕事は

A13. (福岡)

印象深かった出来事は、りそなショックとその後の改革です。当時、埼玉りそな銀行の設立準備室のメンバーで、この時の経験や感謝の気持ちを次世代に確実に繋ぎ、地域への感謝、熱意を謙虚かつ愛情を持ってサービスを提供していくということが本当に必要だと考えています。仕事では、設立準備室の当時、目指すべき銀行像を当時の経営陣とディスカッションしていく中で、これからの埼玉りそなに対する熱い情熱が圧倒されるぐらい強かったことを覚えています。これまでで一番厳しかった仕事ですが、心に一番残っています。

Q14. 小・中・高校時代の中での思い出は、また、こだわりの食べ物など

A14. (福岡)

騎西町で生まれ育ち、自転車で学校に通っていたので、常に田んぼの中にいたというイメージです。友人とよく畑で缶蹴りをしていたという程度でしょうか。食べ物は何でも食べますが、あまりこだわりはありません。

以上